新潟県中越地震

善意の募金活動 各地で

水土舎 26日まで、訪問先で

富岡

富岡市の知的障害者授産施設水土舎は26日まで、「新潟県中越地震の義援金募金」キャンペーンを展開している。同施設で生産した卵や手づくりジャムを販売するために訪れる、富岡市役所や近隣の町役場などで、10月27日から募金を開始。

募金活動に励む参加者たち

集まった浄財は、同市福祉課を通して被災地へ送る。

同キャンペーンは、同施設の支援職員の家族が、長岡市で被災したことなどがきっかけ。さまざまな問題について障害者が自分で考え、何をするかを決めて、社会参加してゆく「本人活動」の一環として、取り組むことになった。募金集めに参加した同施設の清水純さん(23)は、「優しい人がいて、その気持ちがうれしい」と話していた。

2004年(平成16年)10月30日 土曜日 京 二

新潟中越地震 富岡の施設職員実家被災

障害者ら奮起 募金活動開始

「地域社会参加の一歩に」

富岡市後賀の知的障害者授産施設「水土舎」の障害者らが、新潟県中越地震の義援金を募る運動を始めた。日頃の支援に対する感謝の気持ちとして、少しでも社会にかえしたいという思いからだという。きっかけになったのは身近な被災者だった。

施設の職員矢尾板直人さん(25)の妻と長男(4カ月)が新潟県長岡市の実家に里帰り中、地震に見舞われた。家は半壊、妻の両親、妻と長男、その後駆けつけた矢尾板さんは車で生活しているという。

施設を利用する障害者は30人。職員がこれまで、ニュースなどを題材に社会参加へ導く試みをしてきたが、あまり関心を示してくれなかった。だが、今回は、職員の家族の被災で障害者らも地震を身近に感じた。

利用者の熊井戸美枝さん(27)が中心となって、まずは親からカンパを募り、約1万8千円が集まった。これを機に27日から募金活動を開始した。11月26日まで続ける。

金谷透施設長(56)は「障害者は、支援される受け身の姿勢が当たり前になっている。地域社会に働きかける自発的な動きが出たのがうれしい」と話す。

施設でつくる卵やジャムを出前販売している安中市役所などに出かけて、職員や来庁した市民から義援金を募っている。金谷施設長は「募金が集まると励みになる。この運動を地域社会に参加する一歩にしたい」と話す。

義援金は、富岡市を通じて被災者へ届けられる。問い合わせは、水土舎(☎0274・64・1254)へ。

新潟県中越地震の募金活動を始めた知的障害者授産施設「水土舎」の利用者ら＝富岡市役所で

産経新聞
16年(2004年)11月2日 火曜日

富岡で地震義援金活動 知的障害者が自発的に

富岡市の知的障害者授産施設「水土舎」(金谷透代表)の利用者で作る自治会が、新潟県中越地震の被災者に贈る義援金の募金活動に乗り出した＝写真。同施設で生産する鶏卵を販売している県西部の市町村役場などで二十六日までの約一カ月間、募金活動を続ける。募金は富岡市に委託し、現地に届ける。

施設職員の妻が新潟県長岡市の実家に帰省中に被災したことから、自治会は緊急集会を開いて募金活動を決めた。障害者が社会から一方的に援助を受けるのではなく、障害者の側からも積極的な社会参画を促そうと、同施設では半年前から月一回の「十分講話」を実施しており、今回の活動は、「初の障害者からの自発的な社会参画」だという。

金谷代表は「障害者の自発的な活動を積極的に支援していきたい。目標の一カ月を続けられるかどうかが課題」と話している。

問い合わせは水土舎☎0274・64・1254。